

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	・年末に向かい、更に会合、食事会や接待等が増加傾向で、先の予約が入ってきている。
	◎	タクシー（経営者）	・秋の観光シーズンに向けて、予約数が増加している。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・墓の中が一杯で粉骨の依頼、相談が増えている。また、今月は1人暮らしの方が亡くなったという依頼が多く入っている。
	○	商店街（代表者）	・10～11月は秋の運動会や各種競技会が詰まっているため、スポーツ店にとって、これからはやや上向きになる。
	○	コンビニ（経営者）	・クリスマスに向けて消費が増える予想である。
	○	乗用車販売店（経営者）	・新型イベント効果で、新車受注が増加傾向となり、発売開始で売上の拡大が期待される。
	○	一般レストラン（経営者）	・地元の祭りもあるため、多少は上向きになる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は変わらず好調に推移している。今月のように、予約以外の動きもここ数か月続いていることから、先に関しても期待を持てる。また、直接的な影響はないかもしれないが、政権政党総裁選挙の結果次第で、更に伸長する方向に向かうか、逆方向になるか気になるところで、それによって変わることも考えられる。
	○	遊園地（職員）	・9月末にイベント開催を控えているため、積極的に情報発信を行い、より多くの客の獲得につなげていきたい。
	□	百貨店（営業担当）	・変わらないというより分からない。新政権で、物価高騰対策がスムーズに行われるかどうかや米国の関税政策の影響次第のため、その先は読みにくい。
	□	百貨店（店長）	・秋の催事が続き、現状は維持できるとの見立てをしている。ファッションでは重衣料の動きに期待している。
	□	スーパー（経営者）	・電気料金も含めて値上げが続くので、どこまで消費者が我慢できるかである。一方で、最低賃金が上がるのはコスト増加となるものの、アルバイトや短時間労働者にとってはプラスとなる。
	□	スーパー（経営者）	・現在と変わらず、忙しい状況が続く。
	□	コンビニ（経営者）	・今までは日が長くて、客が夕方もそこそこ来店していたが、日が短くなるにつれて、来客数も伸び悩んでくるため、売上の伸びはそれほど伸びない。
	□	コンビニ（経営者）	・クリスマスも控えているため、今月より多少は売上も伸びる。賃金は上がっているものの、消費には直結しないと考えている。
	□	コンビニ（店長）	・来月からまた、最低賃金が上がって、幾らか皆の懐が良くなるのではないかとみている。ただし、値上げ等で厳しい状況は変わらないため、今後も余り変わらない。
	□	家電量販店（店長）	・政府からの景気対策が出てこない。
	□	自動車備品販売店（従業員）	・価格に敏感な客の動きは早いものの、物価高もあるため、低価格帯の商材を選ぶ傾向にある。
	□	その他専門店〔酒〕（店長）	・3か月後は12月で、最も物量が動く時期である。客も動く時期なので、9月と比較すると売上は伸びるが、価格転嫁が非常にスピードを増しているため、どのように変化していくかは3か月後になってみないと分からず、非常に難しいところである。9月は収穫の月だが、12月に価格転嫁が起きるのではないかとみている。酒米から販売用の米に転作が進んでいる。
	□	一般レストラン（経営者）	・物価上昇等に対して、負の気持ちが慢性化しており、目に見えた景気回復はない。
□	スナック（経営者）	・企業が朝にアルコールチェックを始めるようになってから、23時を過ぎると本当に客が帰ってしまい、その他の客も来店しない。このまま何か改善しない限りは厳しい状況が続く。	
□	観光型旅館（経営者）	・予約状況を見ると、11月は3連休が2回あるため、例年よりも動きが良い。現在のやや良い状態はしばらく続く。	
□	都市型ホテル（スタッフ）	・8月のように増えるとは考えにくい。極端に下がることもないが、値上げや物価高によりホテルの利用を控えている。	

	<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（スタッフ）	・インバウンドや周辺施設の建設ラッシュによる宿泊増加で、連日の満室が予想される。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（社員）	・大容量サービスが本格的に開始となるため、他社からの乗換え促進を図っていきたい。
	<input type="checkbox"/>	通信会社（社員）	・依然として、良くなるような兆しがみえない。物価高は相変わらず続いているため、横ばいを保つのが精一杯である。
	<input type="checkbox"/>	観光名所（職員）	・今期の傾向として、西日本からの来客数は増えているものの、それ以上に近県や東日本からの来客数が伸びていない。
	<input type="checkbox"/>	ゴルフ場（副支配人）	・物価上昇に伴う原価の上昇や、客の出費に対する引締めがみられ、改善される要因が見当たらない。
	<input type="checkbox"/>	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・これから天候が良くなり、外でのレジャーが盛んになっていくため、売上は低下する時期である。
	<input type="checkbox"/>	その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	・観光業は良いようだが、我々の業界は新型コロナウイルス感染症の収束後、なかなか以前のように戻らず、原油価格の高騰と物価高、人件費の上昇で大変厳しい環境だと、同業者からよく聞く。
	<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・10～11月の値上げ通知をみると、長年のデフレ分を取り戻すような値上げで、インフレのようである。
	<input checked="" type="checkbox"/>	一般小売店〔家電〕（経営者）	・食品等、生活に1番身近な物の値上がりは止まらず、他の物への支出は必要に迫られた出費にとどまっている。物がなくなるわけではなく、いつでも購入でき、購入手段も多様ななかで、実店舗を構えて商売を継続していくのは厳しい状況である。
	<input checked="" type="checkbox"/>	百貨店（経理担当）	・天候と連動した衣料品の販売推移には期待するものの、世界情勢、物価上昇の懸念が払拭できていない。新米価格も変わらず高値で、食料品の販売にも儉約ムードがあることは否めない。
	<input checked="" type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・秋の値上げにより、今後の原価にも影響が出てきて、今以上にセール日に集中した買い回りになると見込んでいる。以前のように複数店舗を回って特売品を買う人は減っている。
	<input checked="" type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・可処分所得が増えていない。
	<input checked="" type="checkbox"/>	旅行代理店（副支店長）	・製造業の仕事量が落ち込んでおり、休日を増やす企業が出てきている。輸出時の関税や物価高により、娯楽への消費は落ち込む。
	<input checked="" type="checkbox"/>	ゴルフ場（経営者）	・物価や人件費等の高騰、労働時間抑制の三重苦で、正直厳しい環境である。価格転嫁や生産性向上には時間が必要である。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・物価上昇の上に、寒くなると来客数が減少するため、売上は下がる。
	<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・良くなる要素がない。
	<input type="checkbox"/>	スナック（経営者）	・自転車での飲酒運転の取締りが始まったことで、利用客が激減しており、元に戻る見込みはない。他の方向で来客を増やす努力を始めているものの、なかなか厳しい。市街地の居酒屋にとっては冬の時代が来ている。
	<input type="checkbox"/>	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・先行きは悪くなる。
企業 動向 関連 (甲信越)	<input checked="" type="checkbox"/>	金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
	<input type="checkbox"/>	電気機械器具製造業（経営者）	・通常、10月から年末にかけて繁忙期であるが、注文件数からみて、早めに動き出したようである。ただし、材料費等は高騰し続けているため、楽観視できない。
	<input type="checkbox"/>	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・今後数か月は、現状同様、やや良くなる状況が予想される。
	<input type="checkbox"/>	食料品製造業（営業統括）	・10月は食料品の値上げがめじろ押しで、消費者の購買意欲はますます落ち込むとみている。特に、ワインのような嗜好品は敬遠されがちである。
	<input type="checkbox"/>	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注品の受注見込みもあり、年内は現状のまま推移する見通しである。
	<input type="checkbox"/>	電気機械器具製造業（経営者）	・毎月日用品が値上げされるため、客は生活防衛意識の高まりから耐久消費財への支出に慎重になっている。また、海外メーカー、特に中国企業の進出により価格競争にもさらされ、厳しい状況が続いている。

	□	電気機械器具製造業（従業員）	・当社は7月末から変圧器メーカーの受注が停止となっている。現在は受注残で何とか生産計画が立っているが、今後は受注できない予想もあるため、世間の動きとは違うかもしれないが、先行きが非常に心配である。
	□	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・猛暑も一段落し、ジュエリーを身に着ける季節になってくる。金価格は高騰しながらも、工夫して制作した新商品の価格に客が慣れ、購入につながることを期待する。
	□	建設業（経営者）	・工事単価も少しずつ変わってきている。
	▲	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が続いている。
	▲	金融業（調査担当）	・製造業は米国の関税政策の影響が徐々に表面化することが懸念される。非製造業は物価上昇に伴う価格転嫁の動向に加え、消費の弱さが企業マインドを押し下げる見込みである。観光関連は、秋の行楽シーズンを迎え、底堅く推移する見通しとなっている。
	▲	金融業（経営企画担当）	・米国の関税政策と利上げの影響が出てくるとみている。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	・政治が不安定なことも含めて世界の動きと生活が直結している。また、国内でもふるさと納税の問題や米騒動など、何1つ解決していないので、状況は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数、月間有効求人倍率共に横ばいである。
	□	職業安定所（職員）	・10月の最低賃金引上げに伴う企業体力の変化や省力化といった対応を見極める企業が多いと考えられるため、直ちに景況が変動する状況にない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・求人をけん引する製造業において、今までにない新製品を研究、開発する傾向は少ない。
	▲	職業安定所（職員）	・有効求人数の前年同月比が、17か月連続で減少している。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気減速傾向が高まってきていることに加え、米国政権の相互関税政策が今後の日本経済にどの程度影響を及ぼすか不透明であり、日本企業の収益悪化が懸念される。
	×	—	—